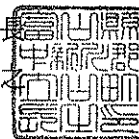




国土交通省道路局長 殿

平成 19 年 5 月 8 日

富山県立山町長  
舟橋 貴之



### 道路整備の中期計画の作成にあたっての意見

日頃、立山町の道路行政に対しまして、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
さて、ご依頼のあった事項について下記のとおり回答させていただきます。

#### 記

#### 1. 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

##### ①道路維持管理費の確保

町道であっても、国道などへのアクセス改善により大型ダンプの往来が多い箇所や、観光道路であるために大型観光バスが通行するなど、路面の損傷が激しく、従来の維持修繕費では対応できなくなっている。また、これまでは、県道への昇格と道路改良をお願いしてきたが、昨今の県財政状況を鑑みると、厳しい状況である。

地方交付税が削減される中、道路維持管理費の確保に苦慮している。

##### ②バリアフリー化への補助率アップを

超高齢化社会を迎え、歩いて暮らせるまちづくりが急務。介護予防の面でも、外出が推奨されている。しかし、シャッターが降りたまの店舗が目立つ古い町中心部の通りは、もともと狭い歩道に電柱があり、しかも、冬季間は除排雪も障害となり歩行は困難。

そこで、無電中化推進事業があるが、事業費規模が大きく、1/2の国庫補助であっても、財政力の乏しいわが町ではなかなか踏み切れない。

#### 2. 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

地方道路整備臨時交付金・目標達成型（パッケージ）は、住民（生活者）のニーズにあった道路整備に対応しやすい。今後とも、市町村のニーズにあった事業の継続をお願いしたい。

#### 3. その他

わが町の面積は 308 km<sup>2</sup>で車の保有台数は1世帯あたり 1.92 台となっている。車がないと生活できない。しかし、町道 306 km に対して、改良済み延長は約 70%であるため、道路に対する住民のニーズは大きい。今後とも居住者に対する地域間格差を解消するためにも、道路整備に対する必要な財源を確保していただきたい。

以上